

友の会だより

孺恋郷土資料館

2012年5月24日

No13

23年度友の会総会

群馬県指定「黒色磨研注口土器」を語る

松島名誉館長が記念講演



孺恋郷土資料館「友の会」（土屋澄孝会長）の平成23年度総会が3月31日資料館3階で開催されました。

ここでは、土屋会長、郷土資料館の松島榮治名誉館長のあいさつに続いて友の会事業報告などが行われました。このうち23年度事業については、東大名誉教授の荒牧重雄氏による「浅間火山現地学習会」、関俊明氏の「もっと知りたい天明3年のはなし」などの講座が数次にわた

って開かれ好評を博したこと、また7月25日には、イタリア・ポンペイ遺跡で発掘された噴火犠牲者の人型の引き渡し式が行われ、資料館において常設展示が始まったことなどの報告がありました。24年度事業計画では、昨年度に引き続き、関俊明氏による「もっと知りたい天明3年のはなし」を6、9月に予定していること、11月の孺恋村文化祭では、「浅間山噴火絵図展」を企画し、行っていくことなどが承認されました。

総会終了後、松島名誉館長による記念講演が行われました。今井東平遺跡で発掘され、平成9年に県の重要文化財に指定された「黒色磨研注口土器」について、発掘の様、注口土器の造形についての考察、活用の事例など、発掘当事者の松島名誉館長の口から臨場感をもって語られ、参加者も興味津々の面持ちで聞き入っていました。

資料館トピックス-①

孺恋郷土資料館では、このほどボランティアガイドのユニホームが出来上がり、着用をはじめました。スカイブルーのジャンパー

ボランティアガイドがユニホームを着用



形式で、背中に「孺恋郷土資料館」のブルーの文字が入った軽快な感じのユニホーム。来館者からも「さわやかで親しみやすい」と好評です！

発掘現場は、孺恋村大字今井字峰の地内。平成5年、約3500年前の竪穴住居跡、配石遺構などが発見されたことに始まります。自然下、その底面ほぼ中央部分でほとんど無傷のまま置かれたよ

この2個の土器は、大きさなどの形象はほとんど同じ。れ使用されたと思われます。縄文後期中葉、紀元前1600



石が一面に配置された遺構の直大小2個の黒色の土器が、ほとんうな状態で出土したのです。

は異なるものの形、文様、焼成おそらく二つセットとして作らその年代は、形、文様などから年前後のものともみられるのです。

こうしたことから、この二つの注口土器は、特定の人物によって、特別の場面で使用され、最終的に墳墓に副葬されたものと考えられます。すると、考古学的には『縄文時代には特定個人の墳墓はなく、また

目立つ副葬品はない』とされてきており、これまで考えられてきた考古学的な常識が覆されかねない発見ということにもなります。

容量、造形について考察すると、大小の容量の比は4対1であることがわかりました。基本単位“1”について検討してみると、縄文人の平均身長から両手の掌を合わせて掬うことのできる水の量はおそらく100^{リットル}程度であろうこともわかりました。また造形についても、高さと幅の比率を検討すると、共に幅1に対し高さがほぼ1.4倍となり、この比率は、大小の土器の高さにも見られ、小さい方の土器を1とした場合、大きい方はそのほぼ1.4倍、つまりこの二つの土器は、1対1.4すなわち1対 $\sqrt{2}$ の比率で、きわめて図形的に造形されていたことになり

ます。これらのことから縄文時代には既に計量の単位があったかもしれず、数的概念が芽生えていたのかもしれない大変な発見となりました。

この黒色磨研注口土器は、これまでマレーシア、フランス、韓国などに貸出展示され、多数の著書で紹介されました。こうしたことから松島名誉館長は「この注口土器がいかに文化価値が高いものであるか、認識を新たにしてもらいたい」とし、それが私たちの孺恋郷土資料館に常設展示されていることに誇りを持つとうと締めくくりました。

(by ガンビ―)

資料館トピックス-②

昨年8月、家族と一緒に孺恋郷土資料館を訪れた高崎市の笹井康就さんから、長男で市立寺尾小学校に通う淳史君(当時5年生)が「浅間山の大噴火」と題する作文を「第27回高崎市小・中学生文化財作文コンクール」



「浅間山の大噴火の作文」高崎市教育委員会のコンクールで入選

に応募し、入選した旨の報告と、来館時、ボランティアガイドに解説してもらった感謝の手紙などが送られてきました。淳史君は、作文に、天明3年の浅間山大噴火の際、当時の鎌原村が土石なだれで埋まってしまい多くの

昨年来館の市立寺尾小の笹井君

人々が犠牲になったこと、観音堂の石段から発掘された二人の女性の遺体の状況や、昨年から常設展示されているイタリアのポンペイ遺跡から発掘された噴火犠牲者の人型などから、極限状態の人間の心理や行動について、「人間は極限状況におちいると、助け合って少しでも長く生きられるようにしたり、誰かを守ろうとしたりすることがわかりました」と、感想を書いています。

(by ガンビ―)